精神分析的人間理解の研究

文学部・心理学科　教授
池田　政俊　IKEDA, Masatoshi
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.2550836795d938e9.html

心理

八王子キャンパス

キーワード：精神分析、臨床精神医学、メンタルヘルス

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を
SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

精神分析の実践を重ねながら、日々、人々のこころの健康、生きがいなどについて思索しています。それは以下のようなことです。

例えば……人は誰でもいつかは死ぬ。ということは、合理的に考えると生きていることに意味はないのではないか？こうした命（や無償の愛など）の「限界」を知りながら、（あるいは、知っているからこそ？）、豊かに生きるとはどのようなことなのだろうか。処世術的なスキルを磨き、その場その時に、より「適応」して行くことなのだろうか。あるいは、磨いたスキルで適応しようとしている自分や、そうしないと適応できない自分と徹底的に向き合おうとすることなのだろうか？

「より上へ」「前へ」と、幻想かもしれないファルスを追い求め続ける（そして死ぬ）ことより、一見非合理的で無駄に見える営みの中にこそ、truth , あるいは authentic なものがある可能性はないのか。

それは「家族との日常生活」「長い下積みの修行」「自然」「普通」などなのか。

しかしそこには常に二面性、いや多面性がある。”相反するものの同時存在の中にこそ、私たちの偉大なる＜普通性＞があるのではないか。”（村上春樹）

「目指すもの」ではなく、結果としてそこに到達する「真なるもの」とはなにか？

依存、分離、競争にまつわる葛藤を、治療関係に集約して再演し、それを転移として体験し、解釈することを通して、患者が自己理解を深める。それは何のためなのか？

微視的にも巨視的にも「無駄」にも感じられる多くの時間は、ウチとソトの区別、必ず訪れる「老」」「死」、などという問題とどう関係するのか。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

私の行っていることは、おそらく直接には社員のメンタルヘルスにも、動機付け向上にも役立ちません。しかし、仕事をすること、さまざまな要因で仕事ができなくなること、復職すること、ワークライフバランスをとること、年を取っていくこと、一見無駄に見える作業をすること、自分の行っていることに意味を見出すこと、あるいは見出し得ないこと、そして究極には生きていくこと、などについて、それぞれの人の個別性の高い心の歴史の中での意味を深く考えていくことには役立つだろうと思います。深い意味でのメンタルヘルスに寄与するところは大きいと考えます。

知的財産・論文・学会発表など

2022　見るなの禁止—「逃避」から「克服（志向）」そして「共存」へ、精神分析研究 66（3）
2022　精神分析における対話、精神科治療学 37（10）
2018　精神分析状況・設定論、精神療法増刊第 5 号
2017　心理支援のゴールについて考える、帝京大学学生カウンセリング研究 5
2016　運動の精神病理、心理臨床の広場 8（2）

死別や、悲嘆、グリーフワークに関する研究

文学部・心理学科　助教
石田　航　ISHIDA, Wataru
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.2550836795d938e9.html

心理

八王子キャンパス

キーワード：死別、悲嘆、プロセス研究

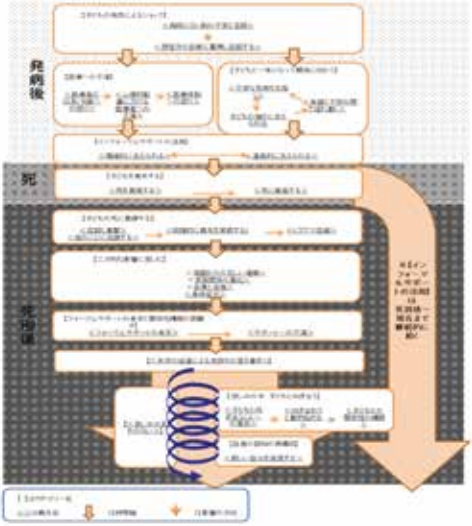
SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

人間はなんらかの喪失を体験した後、悲しみなどの感情である、悲嘆が生じる。

悲嘆は大きく２つに分類される。つまり、「通常の悲嘆反応」と「病的な悲嘆反応」である。病的な悲嘆が生じると、抑うつに似た症状が生じ、日常生活を継続することが困難になる場合さえある。親しい人との死別は、特にストレスフルな体験であるとされているが、その中でも、親から見た子どもの死は、「特別な死」と位置づけられ、悲嘆が強くなる。

今回紹介する研究は、病気で子どもを亡くした親を対象に、子どもの病気の発覚から、子どもとの死別を経験し、現在まで、どのような体験をされてきたかについてインタビュー調査を行ったものである。結果は右図であり（石田 , 2016）、子どもとの死別後、どのような経過を辿るかを示した。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

親しい人との死別は、誰しもが体験する事柄のひとつであり、これについて考えることは実学と言えるだろう。人が亡くなる際には、病気はもちろんであるが、事故や犯罪による死、加えて日本という国は、災害とも付き合っていけなければならない。その中で、いつどこで生じるかわからない、死別にどのように適応するかについて知ることは、苦しい体験を抱えながらも、生き続けることにもつながる。また、「終活」という言葉が流行したが、高齢者の独居世帯が多い中、亡くなる者の心について考えていくことも重要だろう。

亡くなる者と遺される者は、必ず存在するため、その心を理解し、ニーズにあった支援を考え、実施していくことは、人間にとって重要な活動だろう。

知的財産・論文・学会発表など

論文　石田　航 (2016). 病気で子どもを亡くした親の心理的プロセス解明の試みとその支援，日本小児看護学会誌，25(1),101-107.

国際学会での発表

Wataru Ishida (2015).A qualitative analysis of psychological process of parents who lost their children to illness in Japan: An exploration into the parents' experience over their children's illness process with implications for psychological help. A poster presented at the 4th World Association of Cultural Psychiatry, Puerto Vallarta, Mexico.

Wataru Ishida・Sayaka Jinno(2018).A qualitative analysis of psychological process of adolescence who lost their grandparents to illness in Japan. A poster presented at the 5th World Association of Cultural Psychiatry, New York.

個と関係性をつなぐアタッチメントの臨床的活用

文学部・心理学科　講師
稲垣　綾子　INAGAKI, Ayako
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.eabf523280c9342c.html

心理

八王子キャンパス

キーワード：家族療法、アタッチメント、力動的心理療法、親支援、産業労働臨床

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

発達の偏り、虐待、不登校、摂食障害など、つまずきを抱える子どもや青年，家族や関係者のあいだでは､ある困難な局面にいて関係がこじれ､停滞してしまったりすることがある｡これが世代をこえて脈々と連なり、似たようなパターンを繰り返し、SOS を発信することもあれば、新たな循環のパターンを模索していくための援助が開始されることもある。こうした子どもと家族の発達危機における心理援助を続けるなかで、以下の３つの視点が有用であると感じ、臨床実践を積み重ねてきた。

A）個人の心のなかには人がいる　＝　“対象関係”という視点
B）安全な避難所・基地と探索・社交システム　＝　“アタッチメント”の視点
C）関係性のなかでしごとをする　＝　“家族療法”の視点

なかでも、危機状況で発動するアタッチメントシステムと養育システムは、一者の心理的な揺れを二者の関係性の中で調整していく機能をもち、心理的につながりながら自律性を高めていく点で、家族や周囲の大人の役割・機能と、支援の方向性を照らしてくれるものである。

個人の内的世界と現実の対人関係性をつなぐアタッチメントシステムに着目して、以下の３点について、事例研究、介入研究、インタビュー調査研究を行っている。

Ⅰ. 発達の偏りをもつ個人のアイデンティティ発達とそれを支える関係システム
Ⅱ. マルトリートメントにおける親子・関係者支援
Ⅲ. 家族と青年のアタッチメントベースドプログラムの開発と介入・効果研究

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

研究テーマはすべて、児童精神科クリニックや学校、福祉施設などにおける臨床実践のなかで進めてきたものである。関係性からみた、力動的・発達的・システム的視点をどのように援助方策として生かしていくのかについて、さらに事例・介入・調査研究を積み重ねてこの多元性を系統立てていくこと、それを現場と対話しながら根付かせていくことを長期的な目標としている。近年は、産業労働分野でのメンタルヘルスサービスにも携わっている。

知的財産・論文・学会発表など

- 稲垣綾子（2023）「知的発達症と自閉スペクトラム症をもつ本人と家族の自立と自律をめぐる支援：親子・両親間のアタッチメントニーズに着目して」．家族療法研究 39 巻，３号，55-63.
- 稲垣綾子（2022）「自閉スペクトラム症における児童青年期のアイデンティティ発達とそれを支える関係システム：自己受容していった３事例の支援経過と母親インタビューを通して」．質的心理学研究，21，129-149.
- 稲垣綾子（2021-2023）「神経発達症をもつ子の両親システムへの介入研究：マルトリートメントの援助にむけて」（科学研究費助成事業／課題番号：２１Ｋ１３４８３）

環境と身体と心の相互作用

文学部・心理学科　教授
大江　朋子　OE, Tomoko
URL：https://researchmap.jp/tomoko.oe

心理

八王子キャンパス

キーワード：心理学、身体、環境、実験、調査、ヴァーチャルリアリティ

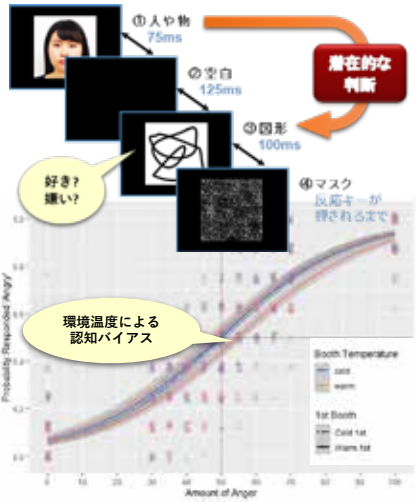
SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

研究の概要

人の心の活動は、多かれ少なかれ、その場の環境と身体を用いて行われている。自分や他者の姿勢、視線、表情、声、匂い、心拍数や血流量など、その時々で身体で処理される情報の助けを受けて、人は自分や他者をとらえることができ、さらには、その場の状況に応じた柔軟な判断や行動を生み出している。

このような情報処理のなかでは、本人ですら自覚できない心の過程が作用し、人や物に対する判断や行動（好ましさ、偏見、差別、攻撃、援助、購買行動など）を方向づけている。そこで生じる潜在的な過程を、心理学で開発された実験や調査の手法を用いてとらえている。

近年は、サーモグラフィー、ヴァーチャルリアリティ、生理反応計測機材を用いて、温度が対人的な判断や行動に与える影響を研究している。温度は、身体的にも社会的にもヒトの生存に重要な情報であることから、認知や行動を方向づける力をもつと考えている。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

環境と身体にある様々な要因が人間の判断や行動にどのように影響するかを検討する研究計画を考案し、実験（多様な機材を利用）や調査（オンラインや質問紙）を実施してデータを収集し、統計的な分析を行うことができる。

知的財産・論文・学会発表など

大江朋子 2021 温度×顔印象 Humanities Center Booklet（Vol.7）顔の実験心理学（2）― 顔では決まらない顔の印象 22-39. ／Oe, T., Takata, T., Ogawa, M., & Kotoku, J. 2021 Behavioral and cognitive responses in a cold and a warm environment: Encountering others on the street in a virtual reality experiment. Oral presentation at the 14th Biennial Conference of Asian Association of Social Psychology, Seoul, Korea. ／西口雄基・萩原健斗・大江朋子 2022 決定論的信念による死連想傾向の促進：若年層の死に関する思考の高まりの早期発見に向けて グローバルビジネスジャーナル , 8, 21-29.

心理療法からみる人の限界と可能性

文学部・心理学科　講師
大塚　秀実　OTSUKA, Hidemi
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.2550836795d938e9.html

心理

八王子キャンパス

キーワード：心理療法、質的研究、成人・高齢者

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

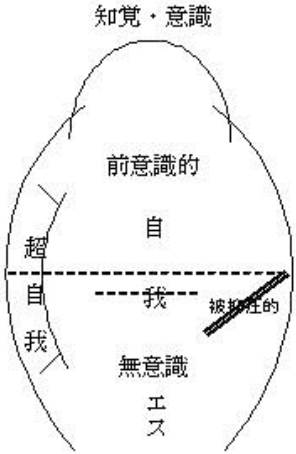
1．心理療法からみる人の限界と可能性について

心理療法を通じて、その人の限界と可能性について知ることは、苦痛を伴うかもしれませんが、その後の生き方を穏やかにするのではないでしょうか。事例研究を通じて人が変化するプロセスについて考察しています。人が変わりたいと思うとき、何かきっかけがあるかもしれません。その手助けができれば、と思っています。

2．心理臨床家のトレーニングについて

心理臨床家のトレーニング体系はいまだ整っておらず、個人的な努力に帰するところも多々あります。公認心理師法が施行され、国家資格となった現在、トレーニングは心理臨床家のギルドを守るためには、必須ではないかと思われます。大学でのトレーニングのみならず、臨床現場におけるトレーニングも体系化する必要があると感じています。

こうした視点に基づき、臨床現場に赴き、インタビュー調査を実施しています。



3．高齢者として生きる

寿命は延び、定年退職してからも人生は続きます。仕事を終えて燃え尽きてしまう人もいれば、生き生きと人生を送る人もいます。その違いは何でしょうか。健康であることとは何だろうか。まずは心理臨床家へのインタビューを通じて、人生をどのように送るのか、引退をどのように捉えるのかを調査しています。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

心理療法を通じて人は、自らの欠点や短所と向き合うことになり、自分では気づかなかった長所がわかるようになってきます。そして、周囲の状況が見えるようになってきます。即座に問題解決をすることはできないけれども、自分の置かれた状況を客観的に見ることができるようになることを通じて、自らの可能性に開かれていきます。同時に、苦しいことをすぐに手放すのではなく、苦しいけれども頑張れば何とか乗り切ることができるという感覚も身につけることができるようになります。心理療法を体験することによって、社会で生きる上で必要な能力が開拓されていくのではないでしょうか。

知的財産・論文・学会発表など

毛利伊吹・笠井さつき・大塚秀実（2020）大学院生の指導に携わる心理士からみた精神科における臨床心理実習，心理臨床学研究 38 号
大塚秀実（2020）学業不振学生を支えるカウンセリングの機能，日本学生相談研究 40 号
大塚秀実（2018）合理的配慮をめぐる心理的準備について帝京大学学生カウンセリング研究 6 号

地域の巡回発達相談事業をめぐる福祉行政機関と園をつなぐ心理専門職としての大学教員の役割の検討

文学部・心理学科　教授
木原　久美子　KIHARA, Kumiko
URL：https://researchmap.jp/read0044959

心理

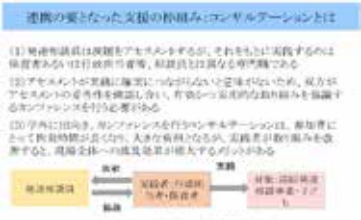
八王子キャンパス

キーワード：行政・大学・園の連携、巡回発達相談、インクルーシブ保育

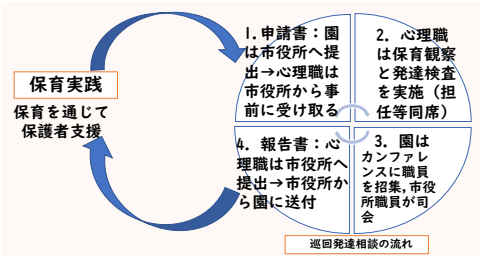
SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

巡回発達相談事業をめぐる八王子市役所・保育園（認定子ども園含む）・本学の発達 / 臨床心理学を専門とする教員の 32 年に亘る連携体制を、地域のインクルーシブ保育システムを主導する地域の行政機関と保育を実践する園をつなぐサブシステムと捉え、行政と園に対するコンサルテーションを実践してきた。この実践事例をもとに、大学教員としてシステムに果たした役割と成果を検討する。



大学教員が企画した保育実践と心理職の協働モデル



巡回発達相談活動における行政と大学の関係

1. 法に基づいて“今”できる支援体制を維持しようとする行政に対し、“これから先”を見据えて課題と解決策を提示し、システム開発を後押しすること
2. 行政は、大学教員の行う相談活動が、インクルーシブ保育体制に寄与している判断すると、連携に基づいてシステム開発に着手する（詳細は以下に記載）

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

本学の教員である心理の専門家が地域のインクルーシブ保育システムとしての巡回発達相談事業にシステムの観点から関与してきた成果は、以下の点に集約することができる。

第 1 に、行政担当者の同行を必須として、地域の課題を行政が把握できるシステムを維持したこと

第 2 は、連携の場を、地域の福祉行政が抱える多様な課題の解決策を検討する機会としてきたこと　例：保育力量の形成、量的な数値目標から質的な保育力量の形成へと事業の目標を転換すること、心理相談員の雇用等の課題を検討

第 3 は、保育者との連携、アウトリーチや発達心理学の専門性を持った心理専門職の養成を組み込んだ行政との協働体制が構築されたこと　例：公認心理師等心理専門職の資格取得のための大学院生実習

知的財産・論文・学会発表など

1. 木原久美子（2016）巡回発達相談の組織開発を支援する行政との組織コンサルテーション、臨床発達心理実践研究 1,63-75.（査読あり）
2. 木原久美子・近藤清美・黒田美保・稲田尚子・稲垣綾子・笠井さつき（2020）大学・行政・園の連携に基づく障がい児等保育巡回発達相談事業の展開、第 3 回帝京大学研究交流シンポジウムポスター発表、オンライン開催、2020 年 9 月 30 日～ 10 月 6 日.
3. 2022 年 8 月 27 日（土）～ 9 月 11 日（日）（オンライン開催）木原久美子（帝京大学），近藤清美（帝京大学）企画，日本臨床発達心理士会第 18 回全国大会企画一般公開シンポジウム，帝京大学 · 八王子市共催

推察に関する実験的分析

文学部・心理学科　教授
草山　太一　KUSAYAMA, Taichi

心理

八王子キャンパス

キーワード：心の理解、共感、協力、モチベーション・ビデオ、メンタライジング

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

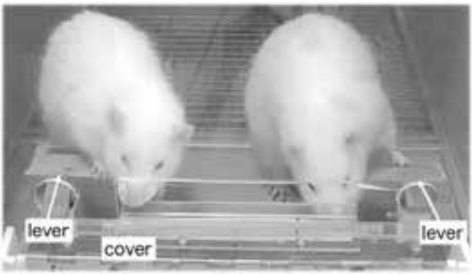
研究の概要

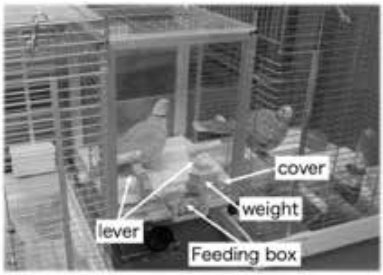
他者の心的状態を推察する「心」の仕組みについて、次の３つの研究を行なっています。

1）ヒト以外の動物の共感性：げっ歯類（ラット）や鳥類（ハト、オカメインコ）を対象に、「個体同士が同一の目的を果たすために協力することができるか？」また「他個体の心的状態を理解し、援助できるか」という問いについて、オリジナルの装置を用いて検討しています。現時点で、他者の協力が欠かせない状況において、ラットはケージメイトと協力できることが分かっています。

2）モチベーション・ビデオの有効性：動画刺激を視聴することによって、特定の行動の動機づけを高めることができるか、生起の有無や効果的に高めることができる要因について検討しています。

3）非生物に対するメンタライジング：非生物に“こころ”があるように見るためにはどのようなデザインが必要か、心を見出す成立要因について調べています。





実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

ヒト、ヒト以外の動物、人工物（モノ）を対象とすることで、心に関する統合的な理解を目指しています。動物の協力行動を調べることは、私たちヒトの協力の在り方を考えることにつながります。モチベーション・ビデオについては、特定の個人やチームに向けるのではなく、出来るだけ多くの人が利用できるようにビデオの内容を一般化することで、世の中を元気にする一助となりえます。また“こころ”があるよう見えるデザインの検討は、既存の製品に付与することで、その製品に対する愛着度が増し、結果的にモノを大事に扱う意識を高めることにつながることが考えられます。また、今後に普及するであろう様々なロボットに親しみを持たせるような外観デザインにも貢献できます。

知的財産・論文・学会発表など

草山太一・安部良・岡ノ谷一夫 . (2023). 多型原理から幸福を考える . 帝京大学心理学紀要 , 27, 1-6.
草山太一 (2020) ハトとラットにおける協力課題の報酬分配 . 帝京大学心理学紀要 ,24, 1-11.
草山太一・市川万由奈・余洋 (2020) ラットにおける餌と仲間の二者択一課題 . 帝京大学心理学紀要 ,24, 13-23.
草山太一 (2019) 大学生のモチベーションを考える . 帝京大学学生カウンセリング研究 , 7, 13-16.
草山太一・余洋・市川万由奈・岡琴嶺・法月里紗・林真莉花 (2018) ラットにおける他個体への援助行動の実験的分析 . 帝京大学心理学紀要 ,23, 1-14.
草山太一・齋藤正宜・早川輝・高木真優・大高紗雪 (2017) 図形アニメーションに対するメンタライジングの実験的分析―RME 課題との関連，効果音の影響―. 帝京大学心理学紀要 ,22, 19-34.
草山太一・青木佑佳 (2016) 物体に対するメンタライジングの生起要因 ―顔付与の効果― . 帝京大学心理学紀要 ,20, 1-9.

アタッチメントの発達と親子関係支援

文学部・心理学科　教授
近藤　清美　KONDO-IKEMURA, Kiyomi
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.c62c85fac9759fab.html

心理

八王子キャンパス

キーワード：アタッチメント、親子関係不全、発達・育児支援

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

アタッチメントは、愛着と訳されることもあり、スキンシップや愛情と区別されないで使われ、誤解が多い概念である。

そこで、わが国において、アタッチメント概念と理論の普及は重要な活動である。また、アタッチメントが親子の関係性と子どもの発達にどのように関わるのかを明らかにするため、以下の研究を行っている。

① アタッチメント関係の世代間伝達
② アタッチメントの発達に関わる養育者の要因
③ 発達障害児のアタッチメントの発達の特徴と関係性支援
④ 親子の関係不全に対する介入方法の開発
⑤ 甘えとアタッチメントの関係

また、文化間比較研究も積極的に行い、海外の研究者と日常的に共同研究を行っている。さらには、アタッチメント研究の成果を発達支援・育児支援に活かし実践活動をするとともに、保育者や支援者に対しての研修やコンサルテ―ションを行っている。

こうした活動を通して、アタッチメント研究での国際的な賞である Bowlby-Ainsworth 賞（2013）を受賞した。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

男女共同参画社会となり，保育所を含めて子どもを社会の中で育てる方向が明確になってきている。こうした中で，アタッチメント理論は，子どもにとっての心の安全基地の重要性と，子どもの健全な発達の方向性を指し示している。それは，旧来の性別役割観に基く母親中心の育児観ではなく，人間本来がもつ「共同育児」のシステムを裏付けるものである。産業が成り立つためには基盤となる家庭生活と将来の担い手である子どもの健全育成が前提としてあるが，アタッチメント理論とその研究成果は，それを支える知見と実践方法を提供している。

知的財産・論文・学会発表など

（最新の著書）

近藤清美・尾崎康子（編著）（2017）社会情動の発達とその支援、ミネルヴァ書房

（最新の研究論文）

近藤清美（2020）わが国におけるアタッチメント理論を巡る問題、青少年問題 67 巻 678 号 Pp.2-9.
近藤清美（2019）幼児期以降の子どもの育ちと親子のつながり、乳幼児医学・心理学研究 28 巻、Pp.73-78.
Kondo-Ikemura, K., Behrens, K. Y. Umemura, T. & Nakano, S. (2018) Japanese mothers' prebirth Adult Attachment Interview predicts their infants response to the Strange Situation procedure: Revival of Strange Situation n Japan three decades later. Developmental Psychology.54,2007-015.
Farslund, T …… Kondo-Ikemura, K. et al.(2022). Attachment goes to court: Child protection and custody issues. Attachment & Human Development, 24. 1-52.

視覚認知に関する研究

文学部・心理学科　准教授
実吉　綾子　SANEYOSHI, Ayako
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.3eeeccf7af3706b2.html

心理

八王子キャンパス

キーワード：視覚認知、バーチャルリアリティ、CG/ ロボットの認知

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

視覚認知に関する研究

主に大きさや奥行の知覚・錯覚について研究を行っている。例えば手が届く空間と届かない空間では知覚・認知が異なると報告されており、身体からの距離で視覚認知が変化するかどうかを検討している。

Oculus Rift を用いたバーチャルリアリティに関する研究

バーチャルリアリティを用いた面接体験　VR 空間での面接を設定しストレスや緊張を生理指標、心理評価を用いて検討している。引きこもりや外出が難しいケースに対する VR の利用可能性が考えられる。

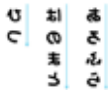
バーチャルリアリティ空間における視覚認知　バーチャルリアリティ空間では、現実の空間と同等に知覚されるのかについて検討を行っている。

CG・ロボットの顔認知に関する研究

ほぼ人間と見分けがつかない（が人とは異なる）ロボットや CG は非常に不気味に感じられてしまうという「不気味の谷」について検討を行っている。この不気味という印象が、観察者とロボットが異なる人種である時に弱まる可能性を日本人と欧米人を対象とした実験で示した。

文字の認知発達：鏡文字についての研究

幼児を対象とし、左右の概念が身についていない発達段階では、鏡文字を容易に「読めてしまう」というデータを得ており、さらに検討を行っている。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

目を通して入力された情報が、脳を神経基盤とする心というシステムでどのように処理されているのかを研究しています。錯覚に代表されるように私たちが認識している世界は物理的な世界そのままではありません。VR やロボットという分野に限らず、提供されたコンテンツが実際はヒトにどのように認識されるのか、主観的な知覚体験や評価について、実験を通して客観的な測定を行い、データを提供し、効果的なコンテンツ作成の一助となると思います。

知的財産・論文・学会発表など

- Saneyoshi,A., Okubo, M., Suzuki, H., Oyama, T. and Laeng, B. (2022). The other-race effect in the uncanny valley., International Journal of Human Computer Studies, 166.
- 実吉綾子・稲田尚子・出水友理亜 , (印刷中), 文字の読みを支える視覚認知機能とその発達支援について , 眼科臨床紀要
- 新井直人・実吉綾子 (印刷中), バーチャルリアリティを利用した面接練習は緊張を喚起するか：心拍、皮膚電位水準、唾液中コルチゾール濃度の測定による検証 , 心理学紀要
- 実吉綾子 , 現実空間における身体とその個人差 , 第 69 回日本理論心理学会 , シンポジウム「身体をとりまく理論:バーチャルな身体と現実の身体における認知」, 上智大学 , (2022 年 11 月)
- 実吉綾子 , 文字認知を支える認知機能とその発達支援について , 第 78 回日本弱視斜視学会総会 , シンポジウム「発達障害児への視覚的支援のエビデンス」, 宇都宮市 , (2022 年 6 月)

パーソナリティの個人差に寄与する要因の解明

文学部・心理学科　教授
敷島　千鶴　SHIKISHIMA, Chizuru
URL：https://creoc.keio.ac.jp/　http://www.kts.keio.ac.jp/

心理

八王子キャンパス

キーワード：性格、知能、学力、家庭環境、遺伝、双生児法

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

研究の概要

性格と認知能力の個人差に寄与する要因を、科学的視点から明らかにすることにより、社会化に果たす家族の役割と、子どもの機会不平等が発生するメカニズムの解明を試みている。依拠するアプローチは、ふたごとその両親を対象とした、行動遺伝学の方法論に基づく双生児研究、そして全国から無作為抽出された成人及びその配偶者と学齢期の子どもを対象とした、家族パネル調査研究である。

現在は、小学３年生から高校１年生のふたごのきょうだいと両親を対象とした、『学力と生きる力のふたご家族調査』を実施し、学齢期の子どもたちが、基礎的な学力（認知能力）と社会的なスキル（非認知能力）を、どのように形成していくのか、その機序を遺伝要因と環境要因から明らかにしている。

また、2019 年から開始した日本学術振興会『国際共同研究事業欧州との社会科学分野における国際共同研究プログラム』では、家族パネルデータから明らかにされた諸相を、フランス、ドイツ、日本、オランダ、英国、米国の６か国間で国際比較することにより、子どもの機会不平等の拡大という世界的課題に対する政策提言を目指した心理学、経済学、社会学の国際共同研究を展開している。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

プロジェクトでは、小学１年生から中学３年生まで学力を１次元で測定することのできる、項目反応理論に基づき等化された、オリジナル学力テストを開発している。今後、テスト項目とパラメタ推定値を公開することにより、幅広い教育現場における利用が可能となる予定である。

知的財産・論文・学会発表など

関連する最近の出版本：

安藤寿康（監修）・敷島千鶴・平石界（編）(2021).『ふたご研究シリーズ第１巻　認知能力と学習』創元社.
赤林英夫・直井道生 ,・敷島千鶴（編）(2016).『学力・心理・家庭環境の経済分析－全国小中学生の追跡調 査から見えてきたもの』有斐閣.

関連する最近の論文（査読あり）：

Chizuru Shikishima, Kai Hiraishi, Yusuke Takahashi, Shinji Yamagata, Susumu Yamaguchi, & Juko Ando (2018). Genetic and environmental etiology of stability and changes in self-esteem linked to personality: A Japanese twin study. Personality and Individual Differences, 121, 140-146.
Chizuru Shikishima, Kai Hiraishi, Shinji Yamagata, Jenae M. Neiderhiser, & Juko Ando (2013). Culture moderates the genetic and environmental etiologies of parenting: A cultural behavior genetic approach. Social Psychological and Personality Science, 4, 434-444.
Chizuru Shikishima, Shinji Yamagata, Kai Hiraishi, Yutaro Sugimoto, Kou Murayama, & Juko Ando (2011). A simple syllogism-solving test: Empirical findings and implications for g research. Intelligence, 39, 89-99.
Chizuru Shikishima, Kai Hiraishi, Shinji Yamagata, Yutaro Sugimoto, Ryo Takemura, Koken Ozaki, Mitsuhiro Okada, Tatsushi Toda, & Juko Ando (2009). Is g an entity? A Japanese twin study using syllogisms and intelligence tests. Intelligence, 37, 256-267.

痛みと心的イメージ

文学部・心理学科　講師
高梨　利恵子　TAKANASHI, Rieko
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.b01ae8d4eaa63fcb.html

心理

八王子キャンパス

キーワード：慢性疼痛、認知行動療法、イメージ書き直し（Imagery Rescripting）

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

医療の質の向上や高齢化を背景にした疾病構造の変化を受けて、慢性疾患への対策や様々な疾患による慢性的な痛みへの対応の重要性が増している。慢性疼痛に対する治療は生物・心理・社会的なモデルに基づく集学的なアプローチが推奨されており、認知行動療法はとりわけ重要な心理社会的アプローチである。痛みに対する認知行動療法は、認知行動モデル（図）に基づき、痛みのために不適切になった行動や痛みに対する破局的な考え（認知）を改善し、痛みの自己管理を目指す。しかしながら最新のコクランレビューによれば、認知行動療法の痛みや障害、苦痛の改善への効果は小から非常に小さなものにとどまっている（Williams et al., 2020）。我々が本邦で実施したシングルアーム臨床試験でも、痛みに対する破局的思考や不安、抑うつ、日常生活における機能不全において有意な改善が見られたものの、痛みの強度については変化が見られなかった（Taguchi et al., 2021）。

近年、不安症やうつ病などの精神疾患において、症状の発現時に現れるネガティブなイメージや、イメージに結び付く出来事の記憶を書き直す（Imagery Rescripting）ことにより、症状改善がみられることが報告されている。疼痛患者の78％が疼痛体験時にネガティブなイメージを持つとの報告があること（Philips, 2011）、さらにイメージは言語的な認知よりも情動に強く働きかけることから（例えば Holmes et al., 2006）、疼痛の認知行動療法にイメージ書き直しを加えることで、より大きな効果をあげることが期待できる。研究ではまず、慢性疼痛患者の持つイメージの頻度や苦痛度、内容などの性質を検証する。さらに、不安症やうつ病で効果が確認されているイメージ書き直し技法を参考にして、慢性疼痛患者へのイメージ書き直し技法を開発し、効果検証を行う。

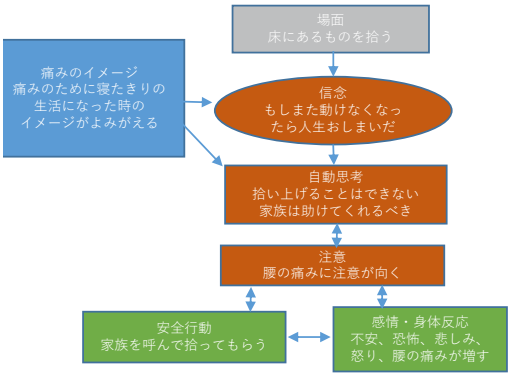


図　慢性疼痛の認知行動モデル

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

慢性的な痛みを抱える患者は 13.4％～ 39.3％（服部 , 2006; Nakamura et al., 2011; Inoue et al., 2015）に上るという報告があり、有意な QOL の低下と心理的苦痛の上昇が認められている。また、労働損失については 1 兆 9000 億に上るという試算（Inoue et al., 2015）もあり、効果的な治療法の開発は喫緊の課題である。

知的財産・論文・学会発表など

- Takanashi, R., Yoshinaga, N., et al. (2020). Patients' perspectives on imagery rescripting for aversive memories in social anxiety disorder. Behavioural and Cognitive Psychotherapy. 48(2):229-242.
- Taguchi, K., Numata, N., Takanashi, R., et al. (2021) . Integrated Cognitive Behavioral Therapy for Chronic Pain: An Open-Labeled Prospective Single-Arm Trial. Medicine.

視線計測による認知特性の評価

文学部・心理学科　教授
早川　友恵　HAYAKAWA, Tomoe
URL：http://www.teikyo-u.ac.jp/hachioji/top.html

心理

八王子キャンパス

キーワード：視線計測、視野障害、シミュレーション

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を
SDGs 目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう

研究の概要

視覚情報処理において、中心視野は情報の識別に、周辺視野は情報の発見に寄与する。しかしながら、網膜に与えられた物理情報は、そのまま意識にのぼるのではなく、注意や記憶によってフィルタリングされる。

網膜に与えられた物理情報と視覚認知の関係を明らかにするために、視線に同期して視野が移動する装置を開発した（図 1：中心暗点の例）。また、視線位置によって変化する物理情報量を逐次計算するプログラムを作成して（図 2）、情報量と視覚認知の関係を評価する一連のシステムを構築した。

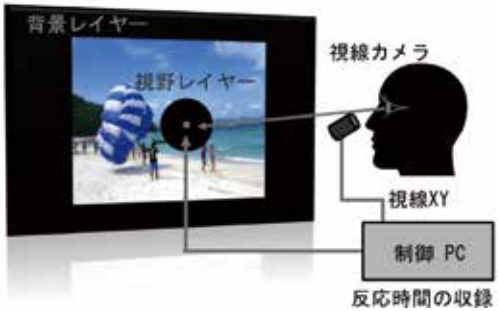


図 1：視線同期型制限視野移動システム

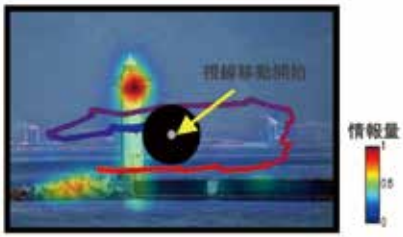


図 2：網膜に与えられる情報物理量の逐次計算

1．実験参加者の眼前に設置した視線カメラで眼前の風景写真等のどこを見ているかが分かる。
2．収集した視線位置ＸＹを使って、任意の形状・大きさ・透過度の画像（例：暗点）を動かす。
3．ボタン押しにより、課題達成時間が取得でき、口頭報告により正答かどうかを確認する。
4．呈示した画像の物理特性を予め計算し、視線移動に伴って変化する刺激の物理情報量を逐次計算する。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

- 視線移動には、ヒトが何に興味をもって見ているか、意識下で決定した結果が現れる。つまり、視線移動の傾向を分析することで、個人の視覚情報処理の特性を示すことができる。
- 適切な自動車運転やチーム・スポーツには、周辺視野が有効に機能することが必要である。こうした認知作業における視線や注意の傾け方が評価できる。
- 視野障がい者における、認知的な不自由度を客観的に示すことができる。障がい者の視野を家族や支援者が理解する時のシミュレータとして使用できる。

知的財産・論文・学会発表など

1）早川友恵，成瀬康，他：視野狭窄が視覚認知速度および認知精度におよぼす影響：健常人におけるシミュレーションⅡ. 信学技報 112: 101-106, 2012.
2）早川友恵，寺園泰，他：注意スパン制御による認知的不利益の克服－中心暗点のシミュレーションによる検討－. 日本ロービジョン学会誌 18: 82-90, 2018.

人間の社会性の進化・適応基盤の検討

文学部・心理学科　准教授
堀田　結孝　HORITA, Yutaka
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.23745b03b63accc9.html

心理

八王子キャンパス

キーワード：利他性、制度、文化、進化・適応論アプローチ

SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

他者と協力し合い、大規模で複雑な関係性から成る社会を形成しているのが、他の種とは異なる人間の大きな特徴である。特に人間独自の社会性として、「強い協力性」及び「文化からの学習」の役割に注目し、進化心理学的アプローチから研究に取り組んでいる。

参加者同士で相互作用を行う実験室研究、社会調査データの分析、クラウドソーシングを用いた大規模サンプルを対象とした実験及び調査研究を行っている。

実験室

利他行動の心理メカニズム

利他行動の至近的メカニズムとしての互恵性や学習の役割（Horita et al., 2017）

協力を支える制度

集団内での協力を維持する制度としての罰、規範、評判などの役割（Horita, 2010; Horita et al., 2016）

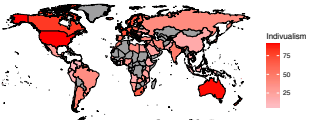
文化と心理の相互作用

同調や信頼などの文化差とその文化差の形成に影響する社会・環境要因の検討（Horita & Takezawa, 2018）

進化・適応論からの精神的健康へのアプローチ

進化心理学的観点からの被害妄想や不安などの適応基盤の検討（Horita, 2021）

評判に基づく互恵性：
Horita et al., (2016) Sci. Rep.



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

人間の協力性の理解は、経営の分野においても組織管理や運営などの面で重要視される。人々がどのような条件のもとで協力するか、どのような制度のもとで協力関係が維持されやすいかを明らかにすることで、組織成員間あるいは組織を越えた協力関係の形成や生産性の向上などにも応用することが可能となる（堀田 , 2019）。

帝京大学で自身が担当する「産業・組織心理学」の科目でも、人間の利他性に関するテーマを産業分野のテーマと交えながら学生たちに紹介している。

知的財産・論文・学会発表など

Horita, Y. (2021) Conjecturing harmful intent and preemptive strike in paranoia. *Frontier in Psychology*, 12:726081
Horita, Y., & Takezawa, M. (2018). Cultural differences in strength of conformity explained through pathogen stress: a statistical test using hierarchical Bayesian estimation. *Frontiers in Psychology*, 9: 1921.
Horita, Y., Takezawa, M., Inukai, K., Kita, T., & Masuda, N. (2017). Reinforcement learning accounts for moody conditional cooperation behavior: experimental results. *Scientific Reports*, 7:39275
Horita, Y., Takezawa, M., Kinjo, T., Nakawake, Y., & Masuda, N. (2016). Transient nature of cooperation by pay-it-forward reciprocity. *Scientific Reports*, 6:19471
Horita, Y. (2010). Punishers may be chosen as providers but not as recipients. *Letters on Evolutionary Behavioral Science*, 1, 6-9.
堀田結孝（2019）．人間の協力行動に関する実験ゲーム研究と組織管理への応用可能性．組織科学．53, 33-42.

大学生に対する発達的観点からの支援

文学部・心理学科　准教授
村上　香奈　MURAKAMI, Kana

心理

八王子キャンパス

キーワード：大学生　発達的観点からの支援、ソリューション・フォーカスト・アプローチ

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

多くの大学生にとって、大学は社会に出る前段階であり、進路決定という形で社会への移行を行うための準備期間である。この期間に大学生は大学で何を経験し、何を学習する必要があるのだろうか。

大学生は青年期特有の発達課題や問題に直面し、それらについて悩み考え葛藤することが求められている（Erikson, 1959）。しかし、大学生の様相として主体的な悩みを経験できない傾向（下山, 1997; 村上・山崎 , 2008）や、進路決定のプロセスにおいて「停滞」を経験する傾向（山田 , 2008）が指摘されている。その結果として、進路が決まらずに大学を卒業する大学生の特徴として「自分の意見や考えを上手く表現できない」「何をしたらいいかわからない」「自信がない」「教員や職員にほとんど相談しない」「エントリーシートが書けない」というつまずき状態にあることが示唆されている（労働政策研究・研修機構 , 2012）。

このような現状を受け、これまでの研究ではソリューション・フォーカスト・アプローチ（SFA）に基づく方法により、大学生に対する発達的観点からの支援として、自身や将来について悩み考える機会を設定し半構造化面接やグループワークによって実践してきた（村上 , 2011；村上・山崎 ,2015）。SFA を用いる理由として、自身や将来について考える契機になる、今できていることを評価し成功体験を認識できるようになる、現実的、具体的かつ達成可能な目標の作成が可能となり実際の行動につながりやすいことが挙げられる。

結果として、支援として与えられた考える機会や方法であっても、それが契機となり、自分や将来について考えることができ、将来への志向、行動力の獲得、現実の直面といった変化が得られること、さらに、自身やその将来についての学生同士の意見交換は実際の行動に影響を与えることが示唆された。

Fig.本プログラムの効果（村上（2011）を改編）

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

本研究で用いた SFA は、自身の将来を展望し、悩み考え行動することによって、自分なりの解決に導くということを援助する。このような経験は、大学生の発達を促進し、ひいては社会の中で生きていく力につながっていくと考えられる。

今後は、自身の課題に対して問題意識のある学生だけでなく、多様な学生をも対象とするため、授業に取り入れるなどし、よく多くの学生に自身や将来について SFA という視点から考える機会を設定したい。

知的財産・論文・学会発表など

- 村上香奈・山崎浩一（2008）. 将来を見据えた目標設定プログラムの実践と有効性の検討－大学における発達支援の探究－、武蔵野大学人間関係学部紀要、第 5 号 , 141-156.
- 村上香奈（2011）. 青年期における発達支援の実践と有効性の検証－女子大学生を対象とした面接調査から－、カウンセリング研究 , 44, 38-49.
- 村上香奈・山崎浩一（2015）. ソリューション・フォーカスト・アプローチに基づくグループワーク・プログラムの実践とその影響－大学生への発達支援に関する質的研究－、カウンセリング研究 , 48, 218-227.
- 村上香奈（2011）. 第 15 章日常生活で使える心理学的支援、村上香奈・山崎浩一編著　子どもを支援する教育の心理学 , ミネルヴァ書房 .

対人的かかわりと心の健康

文学部・心理学科　講師
森脇　愛子　MORIWAKI, Aiko

心理

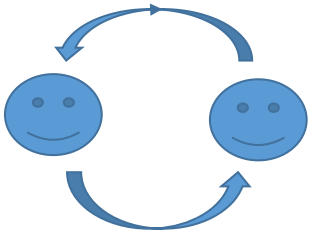
八王子キャンパス

キーワード：対人関係、こころの健康

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

対人関係は、心の健康と密接なかかわりともつと考えられている。たとえば、困ったときに周囲の身近な人に手助けしたもらい、安心することもあるだろう。また、悩み事があったり、落ち込んだりしている時に、周りの人に打ち明けて、慰めてもらい、気分が回復するなど、経験されることも多い。一方で、周囲の人との誤解が生じ、悲しい気持ちになる、挨拶をしたのに、あいさつがかえってこず、不安な気持ちになる、周囲の人との間で軋轢があり、やきもきする、など対人ストレス（例：摩擦）が生じるといったネガティブな体験につながることもある。



そして、そのような対人関係上のさまざまな体験と、心理的健康・感情状態との関連や、ネガティブ感情への対処の仕方やネガティブ感情のメタ認知についてなどを、中心テーマとして扱っている。

SNS などのツールでのコミュニケーションが活発化し、積極的な利用へ

近年、積極的に用いられるようになってきた SNS は、便利な一方で、トラブルや悩みのたねになることもある。たとえば、受け取ったメッセージに対して、早く返信しなくては、と不安になったり、相手の既読無視に心を痛めたり、怒りなどの感情の勢いにまかせて送信したあとで、とても後悔してしまうなどさまざまな体験をしたりする。SNS 上での行動には、パーソナリティや心の健康状態、日ごろの対人関係の在り方がどのようにかかわっていくのかを中心に検討している。方法としては、青年期の人たちを対象とした質的・量的調査を実施している。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

・心の健康面を考慮した情報リテラシーなどへの基礎資料につながればと考えている。
・将来的には、抑うつなど心の不健康状態を予防するための、一次的予防につながる心理教育等を促進する知見につながればと考えている。

知的財産・論文・学会発表など

森脇愛子・坂本真士　編著（2015）対人的かかわりからみた心の健康　北樹出版
森脇愛子　2022（3 月）大学生における携帯電話への依存と孤独恐怖との関連
帝京大学文学部心理学紀要第 26 号，29-35.　　など

ブローカ野時系列処理の比較研究

文学部・心理学科　准教授
脇田　真清　WAKITA, Masumi
URL：https://researchmap.jp/wakita_85297351

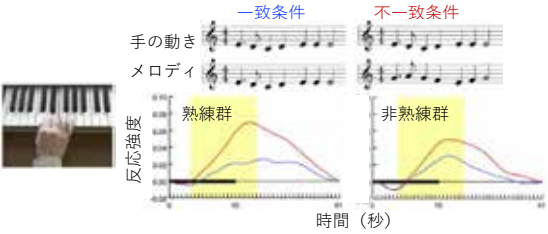
心理

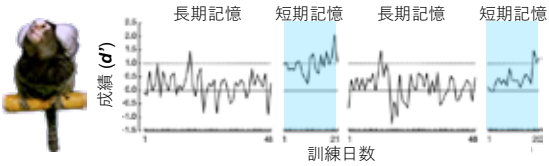
八王子キャンパス

キーワード：ブローカ野、階層、チャンク、言語、音楽、行為

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要





ブローカ野

ブローカ野を含む大脳左下前頭前野は、文法処理（など）に関わる。さらに、この領域は、意味のある行為の実行と理解に加え、音楽の理解にも貢献する。つまり、ブローカ野はドメイン普遍的に時間的な規則性の処理に関与するといえる。

ヒト

【これまでに明らかにしたこと】
観察する行為の規則性とメロディの規則性とを共有するブローカ野の領域がある。

【これから明らかにすること】
ブローカ野における時間的規則性の表現がどのような発達的変化を示すのか？

ヒト以外の動物

【これまでに明らかにしたこと】
サルはモールス信号のような規則的な音列パターンを、語彙として認識しない。

【これから明らかにすること】
大脳での神経細胞密度がサルより高いオウムは、音列をどれほど認識できるか？

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

これまでに、ブローカ野ではドメイン間で時系列の規則性を処理する神経基盤が共有されること実証してきた。このことは、音楽学習による単語習得のレベル以上の転移効果があることが期待でき、本研究の言語教育への展開が期待できる。また、ブローカ野のリズム・タイミング制御の観点から、運動障害後のリハビリテーションへの音楽療法の効果に対するエビデンスを提供できると考えられる。

知的財産・論文・学会発表など

- Wakita, M. (2020b). Language Evolution from a Perspective of Broca's Area. In N. Masataka (Ed.), *The Origins of Language Revisited* (pp.97-113). Springer, Singapore.
- Wakita, M. (2020a). Common marmosets (*Callithrix jacchus*) cannot recognize... *Behav Process* 176, 104136.
- Wakita, M. (2019). Auditory sequence perception in common marmosets... *Behav Process* 162, 55-63.
- Wakita, M. (2016). Interaction between Perceived Action and Music Sequences... *Front Hum Neurosci* 10, 656.
- Wakita, M. (2014). Broca's area processes the hierarchical organization... *Front Hum Neurosci* 7, 937.

2000 年三宅島噴火被災者の復興支援対策の研究

外国語学部・国際日本学科　准教授
大森　哲至　OMORI, Tetsushi
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.f039d8d032fcbd19.html

心理

八王子キャンパス

キーワード：災害、被災地復興、危機管理

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を
SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

研究の概要

2000 年に起こった東京都三宅島の噴火は、15 年という長期間にわたり人体や植生に有毒な火山ガスの放出が継続するなど火山学的にも極めて特異な噴火であった。本研究では、2000 年三宅島噴火の被災者のような継続する自然災害下で生活再建を営んでいる被災者にとって、どのような支援対策が必要とされ、求められているのかについて、産業政策や観光政策などの可能性を包括的に検討することを目的とする。

引用（写真）：三宅島観光協会・三宅村役場

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

2000 年三宅島噴火は、長期的な全島避難を経験するだけでなく、避難解除後も 10 年以上にわたり火山ガスの放出が継続し、被災者にとって生活再建の困難、仕事の再開の困難、経済的回復などの困難、コミュニティの分散、生きがいの喪失など、それらの復興過程からの教訓は、東日本大震災による原発周辺自治体の被災者の現状や今後の問題と重なることが多い。したがって、三宅島の災害復興についての知見の積み上げや体系化をすることによって、東日本大震災の被災者の問題の解明や効果的な支援対策の実現に繋げていくことができると考えている。

知的財産・論文・学会発表など

・大森哲至（2010），繰り返される災害下での精神健康の問題　－ 2000 年三宅島雄山噴火後の坪田地区住民の精神健康について－ 実験社会心理学研究　第 50 巻 1 号
・大森哲至・藤森立男（2011），繰り返される自然災害と被災者の長期的な精神健康の問題　－ 2000 年三宅島雄山噴火後の坪田地区住民の精神健康について－ 応用心理学研究　第 36 巻 2 号 日本応用心理学会 2012 年度 学会賞（論文部門）受賞
・大森哲至（2013），継続する自然災害における高齢者のライフイベントに関する研究 明治安田こころの健康財団助成研究論文集

人間関係のセルフモニタリングツールの開発

理工学部・情報電子工学科　講師
塩野目　剛亮　SHIONOME, Takeaki
URL：http://www.ics.teikyo-u.ac.jp/~shionome/

心理

宇都宮キャンパス

キーワード：心理的距離、セルフモニタリング、職場うつ病予防

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

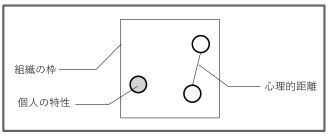
研究の概要

人間関係の改善を目的として自分で自分の状況を把握するための Web アプリを開発している。心理的距離に基づいた直感的なパラメータ設定により、手軽に利用できるセルフモニタリングツールを開発し、その利用による自己認知の改善を目指す。人間関係の変動を表現するための理論とコミュニケーションモデルを構築し、それに基づいたシミュレータを開発している。

メッセージ理論：

メッセージのやりとりにしたがって心理的距離が変化していく

- 心理的距離 … 関係性や孤立を表現するために必要なもの
- 組 織 の 枠 … 個人の動ける範囲を表現するために必要なもの
- 個人の特性 … メッセージの与え方と受け止め方



コミュニケーションモデル：

(1) あらゆるものは他者および自分自身にメッセージを発信しており、受信している。
(2) メッセージのやりとりの質に応じて、個人間の距離が変動する。
(3) 個人の位置の変動は「枠」の中に制限される。
(4) メッセージは距離が近い人に発信される確率が高い。
(5) メッセージはすべての人に等しく確率的に内発し、個人ごとに異なるメッセージの受発信特性によって、様々な質（正負の実数値）を持つものとして発信・受信される。

モニタリングツール（シミュレータ）：

このツールにユーザが自身の周囲の状況（他者との心理的距離、性格特性）を入力する事によって、自分がどのように人間関係を認知しているかをセルフモニタリングし、自身の世界の捉え方を修正していく。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

本研究では、人間関係のセルフモニタリングツールを使って、人間関係に起因する職場うつ病の予防を目指しています。年 1 回のストレスチェックよりも簡単に、日常的に自分の状態を把握し、職場全体の環境改善につなげます。

知的財産・論文・学会発表など

1. 塩野目剛亮，静的シミュレータで心理的距離の自己認知を観察しよう（チュートリアル講演）情報処理学会研究報告，Vol.2018-AAC-8 No.10，pp.1-5（Dec.2018）
2. Takeaki Shionome ， A Study on Organization Simulator as a Means to Prevent Workplace Depression, HCI International 2018 (Human-Computer Interaction International Conference 2018), In: Stephanidis C. (eds) HCI International 2018 – Posters' Extended Abstracts. HCI 2018. Communications in Computer and Information Science, vol 851. Springer, Cham, pp. 444–450 (July, 2018).
3. 塩野目剛亮，職場うつ予防のための組織シミュレータに関する一考察（第 3 報）―人数条件とメッセージ受発信特性条件の影響について―, HCG シンポジウム 2016 インタラクティブ発表, I-2-6（Dec.2016）

放射能心理の質的研究
～放射能リスクコミュニケーションの構成～

医療技術学部・診療放射線学科　教授
大谷　浩樹　OHTANI, Hiroki
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.9f84711268e91abd.html

心理

板橋キャンパス

キーワード：放射能心理、質的研究、ナラティヴ分析、リスコミ

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

放射能に関するリスクコミュニケーションは、科学者からの理論・原則だけでは成り立たない状況である。本研究の目的は、精神的不安を引き起こす放射能心理を質的分析（ナラティヴ分析）により明らかにすることであり、さらに放射能に関するリスクコミュニケーションの構成を検討することである。なお、図に示したリスクコミュニケーションの構成の一例は、2018 年第 1 回 NHK 番組アーカイブス学術利用トライアルによる成果である。

ナラティヴ（物語）分析とは、人々が語る自らの経験や人生に着目し物語を読み解いていくことで心の揺れ動きを捉えることである。本研究では、ナラティヴ分析の一つである構造分析を用い人々によって語られたことにストーリー性を見出し、各センテンスにより共通性を選択した。同じ状況下に置かれた場合でも、自ら対応しようと考える方や漠然と不安を感じる方や隠ぺいなどを思い浮かべ信用を失っている方など様々な心理面が見られた。経時的なストーリー（青矢印）において、赤枠で記した放射能に関する説明を聞いて不安解消へ向かっても再び不安感に戻される例（緑矢印）や安心と不安が繰り返される例（赤矢印）が現れた。

放射能心理は人それぞれで異なるものであり、この質的分析は多くの事象について行う必要がある。そしてリスクコミュニケーションの構成も常に変化している。このことからより多くの視点、専門性と共に研究を継続しなければならない。

ナラティヴ分析により得られた放射能リスクコミュニケーションの構成の一例

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

放射能に対する不安は科学的・理論的に対応しても払拭されない特徴があり、放射能心理学の確立が実学としての急務である。これは放射能に関する有識者だけではなく、心理学者、社会学者など多岐にわたる協力体制が必要である。この放射能心理学によってリスクコミュニケーションを構成し、一般公衆に対応することによって社会的な貢献は大きなものとなる。

知的財産・論文・学会発表など

学会発表：

1. 放射能心理の経時的変化から分類するリスクコミュニケーション．　第 8 回環境放射能除染研究発表会，2019 年
2. 放射能の不安解消へ向けたナッジ理論を用いた行動放射能心理．日本保健物理学会第 52 回研究発表会，2019 年
3. The concept of the radiation psychology for radiation medical. The 14th International Symposium on Medical Imaging and Radiology, 2019 年

放射能の不安解消へ向けたナッジ理論を用いた行動放射能心理

医療技術学部・診療放射線学科　教授
大谷　浩樹　OHTANI, Hiroki
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.9f84711268e91abd.html

心理

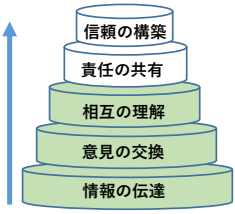
板橋キャンパス

キーワード：放射能心理、ナッジ理論、リスコミ、ナラティヴ分析

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

人々が放射線や放射能に抱く不安を解消することを目的とし、そのためにナッジ理論が用いられることを目指している。具体的にはナッジ理論に適用できる言動を抽出し、選択された言動を用いて行動放射能心理の構築を行うことである。共通コードは「放射線情報」「不安と向き合う」「子どもの不安」「原発避難いじめ」にわけられた。また、行動変化が現れた行動放射能心理を「安心させる項目」「不安にさせる項目」「意志を保てる項目」「知識を確認できる項目」「孤立させる項目」の５項目に分けられ、リスクコミュニケーションとして交わされる言葉と具体策がそれぞれの項目において抽出できた。放射線に関する人々の言葉からナッジ理論に基づいた言動を抽出できた。直後の行動放射能心理を記録しリスクコミュニケーションの具体策を上げることができた。ナッジ言動は多くのものが存在し状況に応じるため、たえずデータをして得ていくことが重要である。



**リスコミ5段階のうち
ナッジ理論からのリスコミは
第3段階の相互の理解までである。**

分析コード	ナッジ言動	行動放射能心理	リスコミ具体策
放射線情報	線量は分からない	行動範囲停止	測定してみよう
	数値が高い低い	遠ざかる	基準を調べよう
不安と向き合う	被災者だよね	挨拶さえ避ける	経験は自分のためになる
	体内汚染	自分も汚染されたか	おそらく汚染の可能性は低い
子どもの不安	ほら頑張って	ぬいぐるみ持ってきた	仲良しといるといいね
	あなたのため	何も言い返せない	わからなくてもいいのよ
原発避難いじめ	何でも言って	言えるわけない	言えなくてもいいんだよ
	福島だから	自分を押し殺す	笑顔を作ろう、知識をつけよう
	頑張れ、大丈夫	行動が止まる	頑張れって言わない

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

放射能に対する不安は科学的・理論的に対応しても払拭されない特徴があり、放射能心理学の確立が実学としての急務である。ナッジ理論を応用することで行動を伴った放射能心理学をもとして放射能に対する不安解消につながる。これは放射能に関する有識者だけではなく、心理学者、社会学者など多岐にわたる協力体制が必要である。この放射能心理学によってリスクコミュニケーションを構成し、一般公衆に対応することによって社会的な貢献は大きなものとなる。

知的財産・論文・学会発表など

学会発表：

1. 放射能心理の経時的変化から分類するリスクコミュニケーション．　第 8 回環境放射能除染研究発表会，2019 年
2. 放射能の不安解消へ向けたナッジ理論を用いた行動放射能心理．日本保健物理学会第 52 回研究発表会，2019 年
3. The concept of the radiation psychology for radiation medical. The 14th International Symposium on Medical Imaging and Radiology, 2019 年

「知覚」と「運動」
―アスリートの予測技能に迫る―

医療技術学部・スポーツ医療学科　健康スポーツコース　助教
緒方　貴浩　OGATA, Takahiro
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.25cd5ad5d6e1fb30.html

心理

八王子キャンパス

キーワード：スポーツ心理学、コーチング、テニス、対峙型競技

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

現代のスポーツ競技は劇的に変化する環境に対して素早く対応することが求められます。「次に何が起こるのだろう？」と状況を的確に予測しなければ勝利を手にすることはできません。情報を効率よく的確に取り入れ（知覚）、それを理解する（認知）スキルの向上が不可欠です（図 1）。そこで、対峙型競技場面の行動予測に着目して、一流選手（熟練者）が利用する予測手がかりを明らかにすることを目指します。

この研究は、コーチングやトップパフォーマンス研究への貢献が期待できます。例えば、テニスのコーチング場面において、相手動作と予測の関係性を示すことができれば 1 秒でも 1 歩でも早くボールに追いつくことができ、ゲーム中の優位性を獲得することが可能となります。

フィジカル面で不利な日本人選手がスポーツの世界でトップに立つためには、予測判断といった知覚・認知スキル面で優位性を得ることが重要です。

図 1.　プレイの遂行に至るまでの一連の流れ

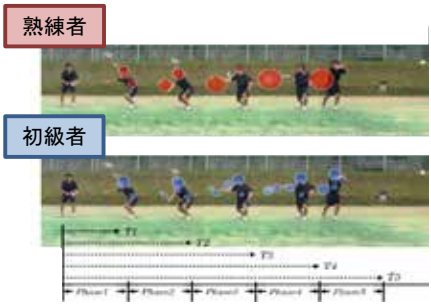


図 2.　テニスストローク観察中の熟練者と初級者の視線配置割合

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

知覚スキル面での優位性を獲得するために、予測判断スキル向上を目指した予測判断能力向上トレーニングの構築に向けて研究を進めていきたい。熟練者と初心者の比較から浮かび上がってきた熟練者の知覚技能を初級者へと落としこむようなトレーニングシステムの開発を目指す。

知的財産・論文・学会発表など

論文（査読あり，最新の研究成果）：

1. ○緒方貴浩，福原和伸，井田博史，高橋まどか，福林徹（2015）：テニスサーバー動作と熟練者の予測との定量的関係性－ビデオ映像を用いた時間的遮蔽法による評価－．人間工学.
2. Kazunobu Fukuhara , Hirofumi Ida, ○ Takahiro Ogata, Motonobu Ishii, Takahiro Higuchi(2017): The role of proximal body information on anticipatory judgment in tennis using graphical information richness. PLOS ONE.
3. Kazunobu Fukuhara, Tomoko Maruyama, Hirofumi Ida, ○ Takahiro Ogata, Bumpei Sato, Motonobu Ishii, Takahiro Higuchi1(2018): Can Slow-Motion Footage of Forehand Strokes Be Used to Immediately Improve Anticipatory Judgments in Tennis? Frontiers in Psychology.

自我理想型人格および超自我型人格の精神的健康と人格形成：志向性、べきの専制、同一視の観点から

帝京大学短期大学・人間文化学科　講師
茂垣　まどか　MOGAKI, Madoka
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.7d21b53f0d22bbb7.html

心理

八王子キャンパス

キーワード：アイデンティティ形成、志向性、べきの専制、自我理想、生涯発達

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

人生の模索の時期にいる青年を対象に、アイデンティティ形成にまつわる夢や将来展望の有無や、「べきの専制」に縛られる／縛られない心性について研究しています。具体的には、「～のようになりたい」という“志向性”と「～すべき」という“べきの専制”の観点から人格の様相を検討し、特に自我理想型人格（志向性高・べき低）および超自我型人格（志向性高・べき高）の精神的健康やその形成についてアプローチしています。

同じように「～しよう」という将来展望・方向性を有する青年のうち、主体的かつ柔軟に志向性を発揮する「自我理想型人格」はべきの専制にとらわれる「超自我型人格」よりも精神的に健康であり（図）、幼少期を回顧した際、家庭の雰囲気をあたたかいと認識し、言うことをきかなければならない雰囲気と感じていなかった場合、初期の人格発達の健全な成長が促進され、現在の志向性が促進されべきの専制が抑制されていました。また生涯の人格発達を心理力動的に分析するために伝記分析も行い、幼少期の家庭の雰囲気や親子関係が子どもの同一視やアイデンティティ形成に影響を及ぼす可能性を示しています。今後さらに質問紙調査や面接調査、伝記研究など質的・量的研究を通して、自我理想型人格・超自我型人格の形成について研究をすすめます。

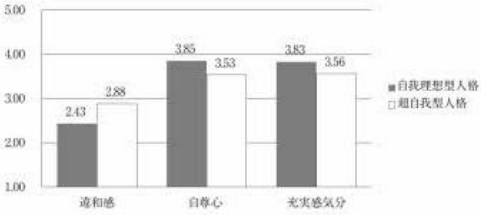


図 4-6　自我理想型人格・超自我型人格における違和感・自尊心・充実感気分の平均値（茂垣（2005）より一部抜粋して作成）

注）自我理想型人格：志向性得点高・べきの専制得点低群
超自我型人格：志向性得点高・べきの専制得点高群

茂垣(2017)より転載

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

青年がどのように夢を持つのか、それを実現可能なものとするために、いかに挫折にも負けずまい進するのか。あるいはなぜ「～したい」と思うことができないのか。本研究は人格発達の基礎的研究であり、社会人としての業務等に直接役立つものではありません。しかし、生涯発達的視点から、人はなぜ志向性を持つことができるのか、また一見方向性が定まっているように見えるが「～すべき」という思いにとらわれて柔軟になることができず、挫折などに精神的に弱い人がいるのはなぜか、などを探求するものです。青年の健やかな精神的発達が、この世の中の今後を支えると考えています。

知的財産・論文・学会発表など

【著書　分担執筆】
- 茂垣まどか（2013）Ⅴ - 1 アイデンティティの模索と確立，Ⅴ -2 青年期の時間的展望，Ⅴ -3 社会に出るための模索，Ⅵ -1 仕事に就くこと・仕事のやりがい　pp.114-125, 132-135.（岡本祐子・深瀬裕子編著　2013　エピソードでつかむ生涯発達心理学　京都：ミネルヴァ書房）
- 茂垣まどか（2017）第 4 章　自己意識の形成　pp.46-62（髙坂康雅・池田幸恭・三好昭子　2017　レクチャー　青年心理学－学んでほしい・教えてほしい青年心理学の 15 のテーマ　風間書房）

【学術論文】
- 茂垣まどか（2020）同一視形成の形成要因についての伝記資料による比較分析：ミヒャエル・エンデとエーリヒ・ケストナーの伝記資料を用いて　教職研究（立教大学　学校・社会教育講座教職課程　紀要）34，33-44.
- 茂垣まどか（2014）志向性とべきの専制の形成因の検討：幼少期の家庭の雰囲気と自我発達の様相から　立教大学心理学研究 , 56, 11-22.
- 茂垣まどか（2005）青年の自我理想型人格と超自我型人格の精神的健康：志向性とべきの専制の様相の観点から．　教育心理学研究 , 53（3）, 344-355.

学習目標志向性を高めるための教育的介入

高等教育開発センター　助教
横山　真衣　YOKOYAMA, Mai
https://ctl.teikyo.jp/

心理

八王子キャンパス

キーワード：目標志向性、相互評価、自己評価

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

目標志向性とは、達成目標に関する個人の特性のことである。目標志向性は主に以下の 3 つに分類される。(1) 学習目標志向性：挑戦を通して新たな知識や技能を習得したい。(2) 遂行接近目標志向性：肯定的な評価を受けたい。(3) 遂行回避目標志向性:否定的な評価を避けたい。

学習目標志向性の高さは、適応的な学習行動や成績の高さと正の関連があることが繰り返し示されており、その優越性が強調されている。学習目標志向性を教育的介入によって高めることが期待されているが、学習目標志向性を高める効果的な介入方法やそれに関連する研究成果は得られていない。

図 1　本研究のスキーム

そこで本研究は、自己評価と相互評価が学習目標志向性の変化に与える効果を、介入前の遂行目標志向性（遂行接近目標志向性、遂行回避目標志向性）の調整効果に着目して検討した（図 1)。相互評価と介入前の遂行接近目標志向性の交互作用項、および、相互評価と介入前の遂行回避目標志向性の交互作用項が有意な値を示したため、単純傾斜の検定を行った。

結果として、以下 3 点が示唆された。(1) 相互評価の学習目標志向性の変化への効果は介入前の学習者の遂行接近目標志向性と遂行回避目標志向性の高低によって異なる。(2) 介入前の遂行接近目標志向性が高い、もしくは、遂行回避目標志向性が低い学習者に対しては、相互評価は学習目標志向性を高めるために効果的である。(3) 介入前の遂行接近目標志向性が低い学習者と遂行回避目標志向性が高い学習者は、相互評価は学習目標志向性を高めるためには逆効果である。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

①実学へのつながり：本研究が着目した学習目標志向性は、重要な学生の特性である。学生の学習目標志向性が高いかどうかによって、教育の成果は大きく異なる。学生の学習目標志向性を高めた上で、「実学」を受ける機会があれば、学生は大きく成長できると考えられる。

②教育的示唆：本研究の結果から、相互評価の授業への導入を決める際、教員は遂行目標志向性の観点から学習者のプロフィールを把握することが望ましい、という示唆が得られた。遂行回避目標志向性が高い学生が多い場合は、他の方法を取る、もしくは、学生が悪い評価ばかりを気にしないようなフォローが必要であると考える。

知的財産・論文・学会発表など

- Yokoyama, M., & Miwa, K. (2021). A class practice study of intervention effect of interactive assessment on learning goal orientation. Frontiers in Psychology, 12, e599480. https://doi.org/10.3389/fpsyg.2021.599480
- Yokoyama, M., & Miwa, K. (2019). An experimental study of an educational intervention to change goal orientation. Proceedings of 6th International Conference on Educational Technologies 2019, 27–34.

アスリートの心理サポート方略の検討

スポーツ医科学センター　助教
松永　悠希　MATSUNAGA, Yuki

心理

八王子キャンパス

キーワード：スポーツ心理学、心理サポート、アスリート、スポーツ傷害

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

【アスリートと心理サポート】

アスリートがより高いパフォーマンスを発揮するためには、身体・心理的側面についても強化が必要である（荒木 , 2019）。彼らの心理的なプレッシャーは大きく、心理的要因によって結果も左右される（荒木 , 2019）。近年では、メンタルトレーニングを取り入れるアスリートも多くいる。近年、**マインドフルネス**「*意図的に今この瞬間に、価値判断をせず注意を向けること*」（Kabat-Zinn, 1994）という心理的特性・介入方法がスポーツ界においても注目を集めており、パフォーマンス向上の方略として取り入れている選手もいる。その効果には**ストレス低減、精神健康へ影響、心理的疲労の改善**などがある（例えば 雨宮 , 2014; 入江 , 2018; Pidgeon et al., 2014; 大平 , 2015 など）。

【アスリートと怪我】

アスリートにとってスポーツ傷害も心理的に大きな影響を与える要因であり、時には選手生命をも揺るがす重大な問題である。アスリートが競技復帰のために行うリハビリテーションは、怪我の回復において重要な役割を担っている（Arvinen-Barrow and Granquist, 2020）が、心理的な要因によりリハビリに集中できないアスリートも見受けられる。このことからも、受傷アスリートへの心理サポートは重要視されてきている。

受傷アスリートへの心理サポートとして目標設定やソーシャルサポートを取り入れることが多いが、マインドフルネスも受傷アスリートにとって有効であることが示唆されている（Mohammed et al., 2018）。しかしながら、国内外においてこの分野での研究は少なく、さらに検証が必要である。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

競技をする上で心理面の重要性が広く認識されるようになり、メンタルトレーニングを自ら取り入れるアスリートは増えている。本学のみならず、さまざまな大学や企業がスポーツに力を入れており、さまざまなサポートを行なっているが、心理面でのサポートを本格的に取り入れているところはまだ少ない。受傷アスリートへの心理サポートの重要性をより明確にすることは、受傷アスリートが安心・安全に競技に復帰し活躍することに大きく貢献すると期待される。またこのことは、怪我なく取り組めているアスリートを含むチーム全体への心理サポート導入促進につながると予想される。

心の起源を探る

先端総合研究機構・複雑系認知部門　教授
岡ノ谷　一夫　OKANOYA, Kazuo
URL：https://www.teikyo.jp/acro/marler

心理

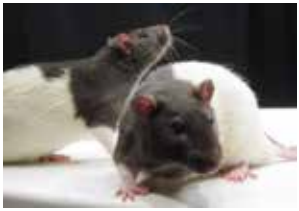
板橋キャンパス

キーワード：心、言葉、音楽、脳、ミラーニューロン、コミュニケーション

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

自分に心があることがわかるのは、自分しかない。しかし心は、自分の行動に深くかかわっている。だから、心も進化の過程で発生してきたものだと考えられる。私たちは、小鳥のさえずりの学習過程、げっ歯類の情動発声、ヒトの音楽などを対象として、コミュニケーションにかかわる心のはたらきとそれと相関する神経活動を調べている。鳥が囀りをうたうとき、うたっている鳥の脳内でも、聴いている鳥の脳内でも、一部の神経細胞に遺伝子が発現する（写真左）。さらにいくつかは、うたっているときと聴いているとき、どちらでも活動するミラーニューロンである。こうした神経細胞が、他者の行動を理解するのに役立つのであろう。ラットは嬉しいとき 50kHz の、悲しいとき 22kHz の鳴き声を出す。これを聴いているラットも、同様な感情を経験することを、私たちは行動学的に示した（写真中央）。これも他者の感情を自己の感情に変換するミラーニューロンの機能であろう。同様なことが、ヒトが音楽を演奏し鑑賞する過程でも起こっているはずである（写真右）。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

私たちが進めているのは、心の起源を探る基礎研究である。しかしその過程で、コミュニケーション障害や学習障害がなぜ起こるのかについての知見を得ることができるはずだ。脳と行動がどう関連し、コミュニケーションを可能にしているのかを知ることは、人類の進化と存続についての洞察につながる。

知的財産・論文・学会発表など

著書：脳に心が読めるか（青土社 2017）つながりの進化生物学（朝日出版社 2013）
さえずり言語起源論（岩波書店 2010）言葉はなぜ生まれたのか（文藝春秋社 2010）

論文：Okanoya, K. (2004). The Bengalese finch: a window on the behavioral neurobiology of birdsong syntax. *Annals of the New York Academy of Sciences, 1016*, 724-735.
Bolhuis, J. J., Okanoya, K., & Scharff, C. (2010). Twitter evolution: converging mechanisms in birdsong and human speech. *Nature Reviews Neuroscience, 11*, 747-759.

対面コミュニケーションによる学習を支える神経基盤

先端総合研究機構・複雑系認知研究部門　講師
柳原　真　YANAGIHARA, Shin
URL：https://researchmap.jp/abc/

心理

板橋キャンパス

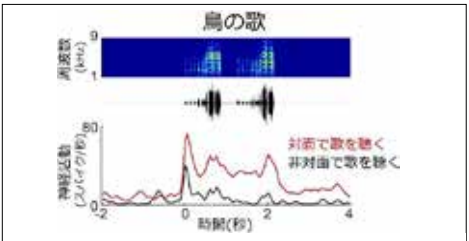
キーワード：対面コミュニケーション、学習、記憶、臨界期、発声、小鳥

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

ヒトの乳幼児が言葉を学ぶ際には、周りの大人が話しかける言葉を直接聴く対面コミュニケーションが重要であり、同じ言葉をビデオやスピーカーを通して非対面で受動的に聴いても高い学習効果は得られない。学習臨界期に親鳥から歌を学ぶ小鳥においても同様の現象が知られている。キンカチョウの幼鳥はスピーカーから提示された歌を受動的に聴いた場合に比べ、親鳥から対面場面で歌を聴いた方がその歌をよく学ぶ。全く同じ音声を聴いた場合でも、学習者（幼鳥）が教示者（親鳥）から対面で音声を聴いた方が学習効果は高い。このように、動物種の違いによらず対面コミュニケーションの重要性が行動レベルで明らかになっているが、これを支える脳のしくみはほとんど分かっていない。臨界期における対面コミュニケーションは、学習者の脳にどのような生理学的・解剖学的な違いを生み出し、学習促進につながるのか。本研究では、学習中における幼鳥の脳内で生じる可塑的変化を分子・細胞・神経回路レベルで明らかにし、対面コミュニケーションに基づく「社会学習」に共通する神経基盤の理解を目指す。

幼鳥が歌を学ぶ際には、スピーカーから歌を非対面で聴くよりも、親鳥から対面で歌を聴く方が学習効果は高い。



幼鳥の中脳ドーパミン細胞は、親鳥から対面で歌を聴く時により強い聴覚応答を示す(Yanagihara et al *JCoLE* 2022)。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

対面コミュニケーションが学習を促進する脳のしくみの理解が進むことで、脳の特性に基づく効果的な教育・学習方法の開発につながることが期待できる。

知的財産・論文・学会発表など

- Yanagihara, S., Ikebuchi, M., Mori, C., Tachibana, R., & Okanoya, K. Role of midbrain dopaminergic system in social enhancement of vocal learning in songbird. *Proceedings of the Joint Conference on Language Evolution (JCoLE)*, 788-790 (2022).
- Yanagihara, S., Ikebuchi, M., Mori, C., Tachibana, R., & Okanoya, K. Neural correlates of vocal initiation in the VTA/SNc of juvenile male zebra finches *Scientific Reports* 11(1) 22338 (2021)
- Yanagihara, S., Ikebuchi, M., Mori, C., Tachibana, R., & Okanoya, K. Arousal state-dependent alterations in neural activity in the zebra finch VTA/SNc *Frontiers in Neuroscience* 14: 897 (2020)
- Yanagihara, S. and Yazaki-Sugiyama, Y. Social interaction with a tutor modulates responsiveness of specific auditory neurons in juvenile zebra finches. *Behavioral Processes* 163: 32-36　(2019)
- Yanagihara, S. and Yazaki-Sugiyama, Y. Auditory experience-dependent cortical circuit shaping for memory formation in bird song learning. *Nature Communications* 7: 11946 (2016)